

桜井 匡 教授を訪ねて

——大正十一年昇格の頃から昭和二年の宮島事件に至る時代の追想を聴く——

時 昭和五十二年八月二十二日、月曜日午後
所 福岡市南区寺塚二丁目二三ノ六、桜井邸

出席者

桜井 匡氏

桜井夫人

横田 健一 関西大学文学部教授

齒田 香融 関西大学文学部教授

藤原 純一 関西大学年史資料編纂室
(現在、大谷女子高等学校教諭)

■ 桜井匡氏略歴

明治二十四年千葉県生れ、青山学院神学部を経て、大正十二年三月、東京帝国大学文学部宗教学科選科修了、同年四月関西大学講師、十月同教授。昭和二年十二月、同辞任。その後、東洋大学教授、九州帝国大学司書官、中村学園理事兼教授等を歴任。

横田 様若様御座、過ち自詭、お坐り下さり、深謝申す。お坐り下さり、誠に幸甚。此の件は、御存じの方々には、御存じのことと存思ひます。今……

横田 様おたずね申しあげる主旨は、先生が大正十二年から昭和二年まで、関西大学にご在職でいらした時代は、ちょうど関大にとりまして、旧制大学に昇格直後で、関大としては、ルネッサンス時代と申しましようか、中興時代と申しましようか、非常に新しい建設の機運が、千里山を中心みなぎっておつたと思います。その当時のふんいきを一つ伺いたいのです。当時の教授で今ご存命中の方は、ほかに沖中恒幸先生だけだと思います。今、東京にいらっしゃいます。昨年、話を伺いました。

もう一つは、昭和二年十月の終りから十一月にかけての宮島綱男先生排斥のストライキは、関大にとりまして、九十年の史上で最大のストライキ……昭和四十四年の大学紛争を除いて……ですが、いろいろ分らないことがありますので、そのご記憶のある先生にお伺いしておきたいと……。

桜井 イヤ、私だけ知っていることならぬ。全部おしらせ申します。

宗教学が私の専門です。特に宗教史を主に……それともう一つは「日本キリスト教史、その反対と迫害ならびに排日論」を私の

学位論文にするつもりでしたが、白蟻に喰われてね。……明治宗教史は非常に複雑ですから、なかなか困難ですが、私の恩師姉崎

(正治) 先生が「やつてみろ」という話で、学生時代に着手したんですがね。……関西大学へ行つた。昨日まで講義を聴いてたものが、講義しなければならない。大変なことです。学生がね。

翌日講義するなんて……最初の担当科目は、一年の方が英語と倫理学、これはお手のもんだ。何でもない。だけど、恐れ入ったのは原書でやる二年の方だ……関大へ来ましたらね、教科書が決まっているんです。なにか「ヒストリー・オブ・フィロソフィ」というのが旧制二年の、それから新制二年のはルドルフ・オイケンの「アレゼントディ・オブ・エシックス」という…英語で。

私は、大学は青山学院を出たんで、ギリシャ語、ヘブライ語、英語は、まあ満足に何とかできるんですが、大学に行つても私の方が学生よりは読める。だけれども、何しろ、赴任すると同時に、官島がね、この本で今日から教える……(この日に合わせるために、前もつて外国から取寄せた)……ソラ困りましたね。何しろ英語でしょう。講義するとなると翻訳して、日本文にして、要点をつかんで、講義に直して、そして……最初の時間に教室に行つたら旧制二年だね。森川太郎、中村良之助の二人のクラスに行つてね。名前を呼んで「読んでみ」。森川太郎が「アキマヘン」って。……「アキマヘン」って、そんな筈はないよ。こら、よく開けてごらん、この洋書はね。二つにわって、折つて、その二つに折つたのを、更に四つに折つて、やってゆくと、切れないですむから、そういう風に開けてみなさい」といった。

私は「アキマヘン」というのは、本が開かないことが思つてたのだ。(一同爆笑)

藤原 大阪弁。

桜井 ソラ大失敗ですよ。こっちも大笑いさせましたよ。「先生違います。できないことです、読みません。」「読みないことをアキマヘンって言うのか」「そうです」それで初めて大阪弁の「アキマヘン」を知りましたな。

横田 森川さんは、後にはケインズ^(註5)経済学の紹介者として有名で、経済学部の演習には、いつもケインズを使っていましたね。学生をざいぶん、いじめられたものですが、学生時代には……。

桜井 あれは、語学は達者じゃない方です。中村にしても、……あのクラスはね、語学の方はダメでしたよ。ただケインズのこと

は官島がね、専門なんだな。それでも、森川だの、いろんな人にケインズ〜つて教えて……それで森川も憶えてんでしょう。マ、そやけど、ですから、いつも私は講義に出るのが苦しくてね。何しろ翻訳をして、その要点をとつて、講義の内容を他の本でいろいろ書いて来なきゃ、一時間半の講義が出来ませんものね。ずいぶん辛い思いをした。しかし勉強になりました。和田豊^(註6)二はどうしていますか。今……。

横田 名誉教授で、悠々自適と申しますが、定年後、阪南大学の学長をしばらくやつておられました。

桜井 和田君はよく勉強しましたよ。あれは新二年生で……それから弁護士やってる桜本^(註7)…和田と一緒にです。

横田 樫本さんは、校友会長で理事です。

桜井 私は赴任すると同時に英語会の会長と陸上競技部の部長を

仰せつけられた。このあいだ陸上競技部の五十年祭の時に行き久井君（現理事長）にも樺本君にも逢いました。もう長いもんで、五十年ですよ。それを話せて無理じゃないの。

横田 しかし、よく、ご記憶でいらっしゃいます。

桜井 ただ紛争の問題についてはね。それ以外のことは憶えているだけは言います。あれは十月か、十一月ですヨ。大学祭つてのをやつた。

横田 昭和二年十月二十二、三の両日、千里山のグラウンドで。

桜井 その時に私は審判長……なのに、審判が不公平だということで学生が騒ぎ出したということを聞いた。どういう理由との報告が、私とこに何もない。何もないんだから、済んだんだろうと思つてたら、今度は翌日、翌々日になると、なんだか問題が……一体なんのことなのか、サッパリわからん。

横田 一番最後にリレーがあつて……。

桜井 それがわからない。

横田 専門部と予科とが、ほとんど同着だったとかいう話で、そ

れまでの点数も同点、そして専門部と予科とが同着でまた同点なので、判定がつかないので、優勝旗がおあずけになつた……学生側の書いた文章をみると、宮島さんが予科に一点をやり、専門部に〇・五点をやられたんで、予科が優勝した。それで専門部が不公平だと言いだした……というふうなことが書いてあります。

桜井 その〇・五点というのが分らんがね。とにかく不公平だという声は聞いた。私には何もない。審判長には……なんのことだか、皆目知らない。私は、恐らく陸上部長をやりましたから。陸上部の選手の連中が、先輩がね。何か役員をやつてたろうと思う

です。それで和田栄太郎（旧姓木下、昭2大経卒）というのがいます、あれが選手だった。和田に、こないだ手紙を書いた。「あなた方（横田、薩田）が（福岡へ事情聴取に）いらっしゃるといふんだから（宮島事件の発端）がどういうことなんか僕はわからんので、学生諸君が知つていることを教えてくれ」と言つてやつたんだけど、返事が来ませんナ。

陸上競技のマネージャーが小森竜（戦死）で、その頃、何をやつたのかな。何かやつて、小森は罰則を喰つたらしい。誰からそれを喰つたかは知りませんよ。それで私に部長をやめろという。それで、やめた、何でやめねばならんだか分らなかつた。どういうことを学生がしたのかもわからん。だからね、何でもわからんことだけですヨ。紛争のおこりがね。それから十二月の何日かな。経済学者の生誕二百年記念……。

横田 アダム・スミス。^(註8)

桜井 アダム・スミスですよね。その記念会をやりましたよ。

教授会といつても、教授と職員とは一緒でした。そのころの教授会の議長は宮島でした。いつでも、どんな時でも宮島がやりましたね。宮島さんは、服部嘉香をヨシカね。

横田 ええヨシカです。

桜井 服部嘉香も早稲田で水谷揆一も早稲田、それから宮島も早稲田。それで早稲田で講師をしていたんですね（関大に来住する前に）

横田 沖中さんも……。

桜井 沖中はちがいます。沖中はまだ学生だったんですね。…ところが何か騒動があつた人ですね。私は知りません…。

横田 あれは大正六年の早稲田騒動というので、大隈内閣が大正五年にできた時に、高田早苗早大総長を文部大臣に引っこ抜いたので、その空いたところへ天野為之さんが総長になった。大隈内閣がつぶれたので高田さんが早稲田へ帰ってきたんですね。そうすると高田さんを総長にしようという一派の動きがあつて、天野派と高田派とが争つたんです。それがもとで早稲田が二つに割れて、大隈排斥運動が起つた時に、アンチ大隈の宮島、服部、波多野精一^(註9)、村岡典嗣^(註10)、大山郁夫^(註11)、永井柳太郎^(註12)、そういう面々が恩賜館にたて籠つて、恩賜館組といわれた……連袂辞職をして、浪人している時に、宮島さんは大阪商業会議所会頭山岡順太郎さんにひろわれて、山岡さんがちょうど……。

桜井 学長でしたか。

横田ええ

桜井 理事長……で。

横田 関西大学の旧制大学をつくる時に總理事。その前に関西大学後援会長にかつがれて、募金をして、三十二万円ほど集められた……それがもとで関西大学が専門部から旧制大学になることができると、山岡さんが總理事兼学長で乗り込まれ、宮島さんを専務理事兼教授にされたと伺いました。

桜井 その専務理事、教授だったことは知っています。私は東大宗教学出ですが、私の友人が服部嘉香の教え子で、私のことを服部に話したらしい。すると服部が、私を関西大学へ呼ぼうということになつて、富島との間に話しが進んだらしい。宮島が東京へ出て来て、東京駅のステーションホテルに泊っているから、私に出て来いと……。

で、私は（関西大学へ）行くことにきまつたんです。卒業の前の年……。まだ在学中です。夏です。

それで、もう一人いらないかって、支那哲をやつたのがいる。漢文の先生……いいよもらうよって、言うようなことで、早川祐吉が漢文の先生に行つたんです。私は四月に辞令をもらいました。講師という辞令ネ、月給は百二十円ネ。

横田 その当時としては、なかなか良い。

桜井 良いんだか、どうか。早川は百円です。私の方が二十四、上だ。おかしいんだな。早川も一緒に喜んで、二人で赴任したんです。一生懸命、二人仲よく教えてましたよ。

横田 震災の年（大正十二年）。

桜井 その年の秋、私は教授になつた、そして文部省はじめ、各東京の私立大学に慰問使を仰せつかつて、上京しました。その時に、慰問使になるために教授になつたんだか、どうか知りませんが、とにかく教授してくれたのです。その時月給五円上つたね、百二十五円です。それはマア、大苦勞をして東京の震災地を訪問してね。

横田 それは大変だったでしょうね。

桜井 そらもう、リュックサックに罐詰を沢山背負つて、汽車はふつうのところから入れないんだ。窓から入らなければ入れん……。

それから、十三年の秋と思います。アメリカの禁酒法案が出た。あの時にウイスコンシン大学かどつかの新聞学部長が来ましたね、私に通訳しるというので、通訳を仰せつかつて、各新聞社を訪問しました。up and down, up and down. もう疲れ切つて

……あの当時中学校の野球大会やつてんです。

横田 朝日新聞主催の……。

桜井 ええ、そこへまた案内された。ところが、up and down で疲れ切つているんだ。あの球場というところが、大変な風呂に入つたような状態で……。

横田 私も大正十三年ごろから、甲子園の野球を見に行ってますから、大体分ります。

桜井 いや、とんでもない。

それからね、松竹座というのがある。

横田 映画の……。

桜井 ハア、そこへ行つたら、その外人がね、俺は病気だつていふんだ。病氣なら医者へ行こうといつたら、医者はいらない、メデシンが欲しい。という。メデシン？ 何のメデシン、どこへ行く？ (外人は) 買つて来るからいい。イヤあそこでみて来ただ。あそこにあるという。

そしたら宮島が一緒にいてね。桜井君、メデシンというのはウイスキーだよ。注文して持つて来させてね、瓶一つ持つてきて、喜んで飲んでましたよ。癒つたのか、って言つたら、癒つた。って言う。変なことをするなと思つた。

ところが私は原稿ね。夜に通訳しろって、原稿をもらつてるんだけど、原稿を見るひまがない。それで夜、専門部(注、福島学舎)へ行つて、通訳始めたんだ。半分ぐらいやつたな。やつたが……なにか分らんことが出て来ちゃつた。困つた。

それから水谷(揆一)君に、君ひとつやつてくれ、と言つたら、水谷は、俺こんなこと分らんよ、つて。君が分らんどうするん

だい。結局、私のところへ帰つて來た。

そんならヨシと、あの外人に話して、「俺これ読みながら話すから、読むとこ、どこだか言つてみて……」って、それから耳に聞きながら、目で見ながら大変なことやつた。

とにかく、やりおほせましたが、大変な失敗をしたと思った。こんな失敗をするようでは関西大学には居られない。追い出されるかも知れん。私はその時に、やめようという考えをもつっていました。

こないだ服部嘉香が、思い出か何か関大新聞に書いたんじゃないかな、四、五年前に……。その抜き書きを私に送つてくれた。

それを見ると、その時は、服部は宮島に言いつけられて、「桜井が学生に評判悪いから、行つて注意しろ」と言われたと、注意しに来たらしいですよ。来たことは覚えてる。その時うちにあつたコニャックを飲んだ、「残つたの、もらつて行くよ、君は飲まんから」とぶらさげて、服部は酒飲んで帰っちゃつた。何も言わんで、……私はそんなこと知らないでいるのに、その年の五月に五円月給が上つたですよ。

私は、どうも失敗して妙なことになつたので、よそへ行こうと思つてた。天理教の中學がある。天理教の中山正善が、俺の後輩ですからね。

横田 なるほど東大の宗敎学。

桜井 ……何べんも来い……言うんですけど。そうしようかなと思つていた時に、九月になつて辞令をもらつたよ。「関西大学教授室主任を命ず、委嘱かな？」(大正十三年九月廿日委嘱) 年俸百円。私は非常にうれしい。月給が五円も上り、秋には年俸を百

円もらつた。うれしいはずですよね。

服部嘉香の書いたのによると、五円上の前には、懲戒免職にでもするつもりだったのかも知れません。それが五円上り、後にまた、こんなのもったのもの、どうもおかしな話だがね。

あとで分つたことは、非常に仲好しの服部と宮島が……それがどういうことになつたからか知らないが、とうとう服部さんは追い出されちゃいます、服部が何時行つたのか私は知りません。

私は就職について服部さんに言葉をかけてもらつてんだから、

そういうことがあるんなら、私は飛んで行つても見送りしたはずです。全然知らないうちに行つちゃつた。

そういうことは、恐らく服部さんに嫌がらせをするために、服部が紹介した桜井に、反対に給料を上げたり、教授室主任を命じたりして……。その翌年あたりもう居なくなつた。もう誰も知らないよ、学生も。

横田 宮島さん排斥の理由の一つに「服部嘉香、沖中恒幸両教授がやめた理由を明らかにせよ」という一項がありましたね。

桜井 ああ、そうですか。

横田 服部先生がおやめになつた事情は、服部先生がずっと後に『千里山学報』にお書きになつたところでは、関西大学では、ある人がコンスピキュアス (conspicuous) になると、どこからか魔手が伸びて来て、その邪魔をされるんだと……。

桜井 そういう所があつたけ……。

横田 だから、自分(服部)は一切原稿を書かないことにした。『千里山学報』の編集は、山岡さんに頼まれて、自分の恋人のように思つて、大事にしていたんだけれども、それに書いたりする

と、ある方面から邪魔をされるんだ……と。ある方面というのは、どうも宮島さんらしい。

桜井 いつから仲が悪くなつたかしらん。とにかく二人(宮島と服部)の間は、本当に仲よしだんですよ。

横田 早稻田で教授を一緒にやつて、早稻田騒動で、恩賜館組と一緒に闘争して、やめだんですからね。もう大正十三年には悪かつたんじゃないですか。十二年か。

桜井 十二年は仲良いですよ。

横田 十二年には、まだ文芸講演会とか、語学講習会とか、一緒にやつて……。

桜井 語学講習会は、僕が発案だから……。

横田 『七十年史』に、宮島先生の発案のように書いたのは、私の誤りでした。

桜井 いやアレ違います。私の発案だよ。

その講習会を成績よく出たものは、(大学の)試験にパスして入れるということになつたんじゃないですか。

そういうわけで、十三年以後には、順調にズーツと來たんですね。ところが(昭和二年の) 大学祭になつて、学校の事に問題が起つた。

当時私は、研究会を始めていた。私と沖中(恒幸)と武内省三と、それからもう一人、福島の近くにいる、商科大学を出た実業家、若い人、何つて言つたかナ、……その人と五人で研究会をやつたんです。みんな専門違いであつても、お互いに話し合うことで、何らかの知識の交換ができるということで始めた。宅廻りですね。それら五人の者は仲好しだつたのですヨ。ところが何時の間

にか沖中が放校処分になつたんです……学校から追い出された……

あの辰巳經世も、あれ学報の編集室。

横田 ええ、ええ辰巳さん。のちに講師やつた人ですね。

桜井 学報の方も駄目になつた。この二人が何時の間にか、そういう風になつた。しかし、それも私は知りませんでしたヨ。辰巳、眼部、沖中、皆学校から追い出された人。何かそういう人が関係あるのかナ。といった議論も起りました。全然、私にはわからぬ。

それから問題が紛糾した時に、私は評議員になることになつていたところが、賀来俊一ってフランス語の先生が、私の家へよく来てくれて、うちの娘や子供なんかに、可愛がつて色々なものを持つて来たりしてくれた。それをみたのが誰か知らんが、佐々あたりじゃないかと思うが、どうも賀来君が桜井君のところへ行つた。桜井の奴はあんな敵と内通してゐるんだろうてなことで、私は評議員になることはペケになつた。その代りに武内省三が評議員になつた。私はそれでおいでけばりを喰つた。

横田 賀来俊一さんは、宮島先生にウケが悪かつたんですね。

桜井 悪いことはないでしよう。別段。しかし、そういうことを言う人、佐々がいた。

横田 佐々穆。

桜井 あの人人が言つたらしいんだナ。いろんなことになつたら猜疑心がわいてネ、なんだかんだつて、中傷的なことばかり言つてんだ。僕はそういうこと知らんふりしていたんだけどネ。いつか私が宮島に呼ばれたんだ。で行つた。福島の近くの旅館に行きました。そこには佐々、小泉(幸治)、それから今中?今井?宮島

の友人らしい。

横田 今山実^{みやの}さんでしよう。

桜井 それがいたね。そこで僕が入り込んだ。その時に、あそこの福島の学校の土地を国鉄、鉄道省に売つたんです。その金を日本銀行へ取りに行って来いと……。その命を受けてネ、日本銀行へ金を行つた。金十万円ですよ。

横田 あの当時の……大きいですね。
桜井 十万円たら、二百枚の葉書の大きさだ……。あのぶ厚さだ。

横田 今だつたら何億という……。

桜井 億でしようナ。それを持って帰つて来てネ。その時に、私を関西甲種商業学校の校長にするという噂があつた。

横田 あの当時、校長は垂水(善太郎)さんでしよう。

桜井 垂水をやめさして、僕にしよう……という噂が……。そうすると桜井は、敵側と内通していること……そうでなきや、そんな金を貰つて来る筈はないという。ところが僕は誰が言つてるんだか知らないですヨ。だから板挟みになつてんだ。私は困つたなと思つていたんですよ。ついでネ。もうしようがねえや、やめちゃえと……いう時に……騒動の最中に、國の父が倒れたんです。中風で……。

横田 千葉県で……。

桜井 成田ですワ。死にはしませんでしたが。翌年(昭和三年)一月になつて亡くなりましたがネ。それから、しょうがないやめちゃんと田舎へいって百姓でもしようかなと思つて辞表を出した。十二月十三日に辞令をもらつています。宮島やなんかと一緒に

じゃありません。退職辞令。

横田 ほかの方と違いますね。

桜井 沖中、辰巳は、学校からやめさせられた二人……辰巳君は専門部出身。それだけの力がある人かどうか知りません。

横田 関大としては秀才だという噂でしたが。

桜井 そうかな、とにかく秀才であった。

横田 翻訳イングラム (J. K. Ingram) の『奴隸制度の歴史』(History of Slavery) があります。

桜井 とにかく、どうも私は一人の人に疑惑を感じた時もあります。だけど、これは疑惑を感ずる方が悪いのかも知れません。いずれにしてもはつきりわかりませんから。なんで宮島反対なったのか。……

それで、私は宮島派ですよ。そういうて宮島の方に行けば、お前、敵と内通したなんてことを言われる。とんでもねえこと…。

横田 あなたの月給をふやしたというのは宮島派にするためで、眼部さんのお世話を入られた方を、眼部さんより月給を上にすれば、眼部さんとしては、居辛くなつてやめちやう、という宮島さんの作戦ですかね。

桜井 なんだか知らんが、そういう変なものがある。モヤモヤしたものがある。

夫人 夜、よく門のところで、桜井のスペイとか、何とか叫んだりされましたよ。裏切り者とかね。私、嫌でした。

桜井 そういうことがあつたな。その時紛争の頭は、喜多村（桂一郎）さんとこへは、宮島は行かんです。その時に教授会があつたって、宮島は出て来やしない。紛争中には全然出て来ない。誰

があの時、議員やつたのか問題です。

園田 佐々穆。

桜井 そうかも知れんな。佐々つて男も、僕はあまり好きじゃない。猜疑心の強い男でね。

横田 岩崎（卯一）さんも、茨木（喜多村理事邸）にお出にならなかつたということは、いろんな方から聞きました。岩崎さんも用心深い…。

桜井 たしかにね、紛争中は…隠れていて

横田 教授会にも出られない…。

桜井 でもね。僕は岩崎君とはネ、死ぬ前に逢つた。此處へ來た。元氣だったが、それから間もなく亡くなつた。懷かしかつたな…。

横田 ジャ岩崎さんが学長のころ。

桜井 学長の時です。……

とにかく、あの頃（紛争の頃）は、いやなことが多かつた…。
(以下昭和二年の紛争に関係がないので省略する)

註1 姉崎正治。（一八七三～一九四九）東京帝国大学教授。

註2 ルドルフ・オイケン (Rudolf Eucken) 一八四六～一九三六) ドイツの哲学者。一九〇八年ノーベル賞受賞。プレゼントディ・オブ・エシックス (Presentday of Ethics)

註3 森川太郎。（一九〇一～一九七四）名譽教授、元学長。金融論。

註4 中村良之助。（一八九七～一九五七）教授。人文地理学

註5 ケインズ (John Maynard Keynes) 一八八三～一九四六) イギリスの経済学者。

註6 和田豊二。元法学部教授。名譽教授。民法

註7 横本信雄。校友会長、弁護士。理事。

註 8 アダム・スミス (Adam Smith 一七二三～一七九〇) イギリスの経済学者。大正十二年六月五日千里山学会主催、記念講演会を開催。

註 9 波多野精一 (一八七七～一九五〇) 京都帝国大学教授。宗教学哲学。

註 10 村岡典嗣 (一八八五～一九四六) 東北帝国大学教授。日本思想史。

註 11 大山郁夫 (一八八〇～一九五五) 社会運動家、労働農民党委員長。

註 12 永井柳太郎 (一八八一～一九四四) 政治家 (民政党)、拓務大臣。

社会政策。

解説

桜井匡元教授は、明治二十四年生れで、千葉県人である。故岩崎卯一元学長と同年の生れ、大正十一年三月、東京帝国大学文学部宗教学科選科を修了して、本学へ教授として来任された。それは氏の友人が、学歌の作者である服部嘉香教授の教え子というので、服部氏と知り合って、服部教授の紹介で、本学へ来られたのである。

昭和二年十一月廿二、廿三日に行われた大学祭において、陸上競技の審判長をつとめられた。その陸上競技の学部、専門部、予科の三者対抗リレーで、専門部が予科とほとんど同着であったのに、第二着と判定されたのを導火線として、平素、福島にあつた専門部が、ことごとに千里山にあつた学部、予科と差別待遇され、貧弱な施設に甘んじていた不満が爆発したのである。審判長を一時的につとめていた桜井教授には、専門部生のそうした不満が、リレーの審判の背後にあつたのを、気付かれなかつたのも、当然である。

桜井氏が関大へ来任されたのも、直接宮島氏の縁によるものではなく、服部氏の紹介によるものであり、また辞職をされたの

も、宮島氏や宮島派と目された佐々、今山、木下その他の諸氏とも一緒に、十二月十三日に独自の理由によるものであつた。

これまで『関西大学七十年史』を執筆した時以来、私は、桜井氏が宮島派として他の同派六教授と同じ立場で行動されたものと思っていた。しかし、今回、同氏を訪問して、同一の立場でないことがご本人の談話によつてよく分つた。しかも氏自らは、自分は宮島派といい、宮島氏に同情する立場をとつてゐる。

服部氏は宮島氏と大正六年の早稲田大学の紛争で、恩賜館組として、反大隈・高田派であつて、宮島氏はじめ永井柳太郎、大山郁夫、村岡典嗣、波多野精一等諸教授と共に連袂辞職した人である。そして宮島が関大の専務理事兼教授に就任するにともなつて宮島の縁で招かれて関大へ来任した。しかし、服部氏は自ら言うところによれば、そのめざましい活躍ぶりを宮島氏に嫉まれて、宮島氏と離れて行き、関大を辞職して、母校早稲田大学へ復帰した。それにもかかわらず桜井氏が服部氏とも宮島氏とも、友好関係を保つていたのは、この対談録をみていただけば、明瞭である。

氏の談話は大正十一年の昇格当初数年間の、本学の諸教授や学生たちの勉学や生活の雰囲気をよく物語つてゐる。あるいは活写しているといつてよい。

昭和二年の紛争の際、学生等が宮島氏に服部、沖中両教授辞任の理由を明らかにせよと迫つてゐるが、必ずしも、それは桜井氏の口から明瞭に語られたわけではないが、沖中氏について、今まで知られなかつた一面も明らかにされた。

特に、今回の訪問で明らかになつたことの一つに、福島学舎の土地が鉄道省に売却され、その金で天六学会の土地を購入することになつたのであるが、その金十万円也を日本銀行へ受け取りに行つたのが桜井教授で、その使命を宮島専務理事に託されたことが、氏を宮島派と、他の教授たちにとられる理由となつたことがあげられる。

その他、細かな点で、桜井氏の談話が貴重な証言であることは少くない。

桜井氏の談話の後半は、他にも、本学の昇格当時の生活などについてのべられたことも少くないが、直接、昭和二年の大紛争に關係が少ないので割愛した。

文學部教授 橫田健一

文学部教授 横田健一